



人とのつながり

古くから、寺社はその地域の人々を護る存在の象徴であった。
しかし近年、毎日参拝に訪れる人も減り、行事のみの場所になっているように思う。
本来、人々を護る存在の象徴であった寺社を、地域の「癒し、語らいの場」として
毎日訪れることで、寺社の役割を復帰させることはできないだろうか。



保存と活用

プロダクト、商品、その言葉を考えるとき我々は、流行のデザインや量産性というようなある種の
経済的利益が先行された『モノ』を思い浮かべがちだ。
しかし、プロダクトには、本来、機能的であったり、長い期間繰り返し使い続けられることが、求めら
れるのではないだろうか。
それは、石油燃料で安易につくられたモノではなく、ある種の創造と破壊がくりかえされるモノである。

そこで、そのリサイクルを今回のプロダクトデザインに活かすことにする。
竹・竹皮・シュロを利用し、かつて、境内に人びとの流れがあったように、その流れをもう一度つくる目的を持って。

植生の回復

植物は人為的な施しがあったからこそ、鎮守の森は存在し続けられたわけであり、ヒトとの繋がりが薄れていけば
また、森は荒れていく。
このプロダクトを作り、使うことで、鎮守の森の回復していくことを願う。



使用材料
シュロ

庭園で装飾樹として用いられる事が多い。



樹皮はシュロ縄として古くから利用され、耐火性、耐潮性も併せ持つ強健な樹種である。
竹

タケ類は成長力が強く、ピークの時は1日で1メートル以上成長する。

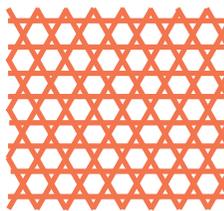
繊維が強く丈夫であり、一般の材木と同様に建材として利用される。

乾燥が十分なされたものは硬さと柔軟さを備えており、さまざまな素材として利用される。



竹皮

防菌性、通気性、柔軟性に優れている。



六目あみ

斜めや三角の構造により強度を増すことは広く知らており
六つ目編はこの斜めの構造で強度を持った編み方で、6本
のヒゴを斜めに組んで六角形を作り、編み進めていく技法。

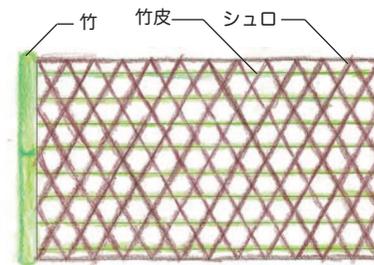


シュロマット

さまざまなことにつかうことができる
ヨガ・太極拳・読書

クルッと丸めて。

台にそっと収納する。



どんな場所でも、そこが人びとの『癒し、語らい』の場になる。